

用語	英語	定義・土木学会(岩盤力学委員会)斜面リスク 小委員会	定義・JIS	定義・AGS	技術士制度における総合技術監理部門の技術体系(技術士会)
リスク	risk	岩盤崩落という事象がある発生確率によって、被害を受ける可能性のあるリスク因子のもとで発生したとき、その被害を受けた結果と発生確率と組み合ったものを使う。	事態の確からしさとその結果の組み合つた健康、財産もしくは環境に対する影響の発生確率と度合いの基準。リスクはしばしば確率×損害の積で評価される。但し、リスクのより一般的な解釈には、積によらない、確率と損害との比較も含まれる。		リスクといふ概念は、共通の性質として次の2つの性質を含む。 ①その事象が顕在化すると、好ましくない影響が発生する。 ②その事象がいつ顕在化するかが明らかでないという、発生の不確定性がある。
リスク移転	risk transfer	将来予想される損失の負担を他者と分担する契約などで担保すること。	特定のリスクに関する損失の負担を他者と分担すること。		リスクがいつ顕在化するかは、以下の様に表現される。 R=0 P1>C1:被害規模(影響の種類と大きさ) P1:発生確率(定量的)
リスク回避	risk avoidance	リスクのある状況に巻き込まれないように思決、またはリスクのある状況から撤退する行動。	リスクのある状況に巻き込まれないように思われる意思決定又はリスクのある状況から撤退する行動。		被害規模が大きく発生確率が小さいリスクは、その費用が高額になると、その投資負担による転移を図る。 特に新たな事業の開始時にける判断として採られる場合、保険を掛けることによってリスクが高く、その改善策が無いと判断された場合には、新規事業への参入自体を回避するという意思決定を行う場合がある。
リスク基準	risk criteria	リスクの重大さを評価するために適用される尺度で、安全性、信頼性、関連する経費、法律及び法令による要求からリスクに対する優先順位などを含む指標がある。	リスクの重要性の度合いを評価するときに参考となる条件。		リスクの重要さを評価するときに参考となる条件のことをいう。リスク保有は認知されないとリスクの受容も含んでおり、受容の度合いは様々である。
リスク保有	risk retention	発生確率が低くリスクも小さい場合に、その損失を負担する対応をいう。	特定のリスクに関する損失の負担の受容。		特定のリスクから結果的に生じる損失負担及び利益を受容することをいう。
リスクマネジメント	risk management	リスクの最小化・最適化を目的として組織や事業を指揮・管理し、リスクを変更させるための戦略、岩盤崩壊を検討・選択、実施する全てのプロセスをいい、リスクアセスメントにおける費用便益分析を参考にどのような事前の対策が合理的かについて、社会的な合意が得られるような対策を講じたための技術である。	リスクに觸れて、組織を指導し、管理する、調整された活動。	リスク査定とリスク制御(もしくはリスク対策)の全過程。	リスクの総合管理技術としてはリスクマネジメントは、企業などの組織、あるいは組織の活動に潜むする不安定性のある事項を整理・分析し、組織のリソースの効率で最適な対処法を検討・実施することである。
リスク分析	risk analysis	利用可能な情報を系統的に用いてリスク因子を抽出・特定し、リスクを算定するもので、岩盤崩壊の事象がどこで発生し、どのような結果になりうるかの発生確率はどの程度か、誰にどのような損害や損傷があるか、さらに対応リスクを算定するプロセス。	リスク分析からリスク評価までの全てのプロセスを抽出・特定し、リスクを算定するための手法。	リスク評価までの各リスク因子を必要とする個々もしくは地域住民、財産或いは環境に対する災害リスクを予測するための、入手可能な情報の利用。通常の場合、リスク分析には、分析対象の特定、災害の想定及びリスク評価が含まれる。	主な内容はリスク分析とリスク評価。
フライティカーブ	fragility curve	降雨量と斜面の壊れやすさの関係曲線。	降雨量と斜面の壊れやすさの関係曲線。		横軸に誘引の大きさを取り、縦軸に斜面の崩壊率を取るグラフ上での両者の相関曲線。
リスクコミュニケーション	risk communication	事業者や行政などの他の関係者との間ににおけるリスクの交換または共有を目的として、情報の送り手・受けて・内容・媒体などを検討する技術。	事業者や行政などの他の関係者との間におけるリスクの交換または共有を目的として、情報の送り手・受けて・内容・媒体などを検討する技術。		リスクの性質、大きさ、重要性、その制御に関して利害関係のある者が情報を交換すること。
リスク最適化	risk optimization	特定のリスクの発生確率の削減や被害の減少を図る対応によって、リスクを最小化するこをいう。	特定のリスクの発生確率の削減や被害の減少を図る対応によって、リスクを最小化するこをいう。		
客観リスク	risk assessment	リスクアセスメントで評価された確率・統計的なリスク。	リスクアセスメントで評価された確率・統計的なリスク。		
主観リスク	scenario	災害履歴、技術者の経験、フレーンストーミング法、AI法、アンケートをベースにした方法などで不確実な将来を予測するものである。	災害履歴、技術者の経験、フレーンストーミング法、AI法、アンケートをベースにした方法などで不確実な将来を予測するものである。		原因事象から結果事象への事象連鎖や展開
シナリオ	stakeholder	個人的、社会的、文化的、環境的、時代的に、恐ろしさ・未知性・災害規模・災害特性などからリスク関係者をいう。例えば事業者、管理者、利用者、国民、政府、社会全般などが相当する。	個人的、社会的、文化的、環境的、時代的に、恐ろしさ・未知性・災害規模・災害特性などからリスク関係者をいう。例えば事業者、管理者、利用者、国民、政府、社会全般などが相当する。		
リスクカーブ	risk curve	想定被害額と発生確率の関係曲線。	想定被害額と発生確率の関係曲線。		
継続的改善		組織のリスクマネジメント方針に沿って全体的なリスクマネジメントパフォーマンスの改善を達成するためのリスクマネジメントシステムを向上させるプロセス。			

組織の最高経営者		組織の運営に権限及び責任のある人又は集團。
リスク対策	risk control (treatment)	リスクへの事前対策、緊急時対策及び復旧対策の総称。
リスク低減	risk reduction	特定のリスクに関する確からしさ若しくは発生確率、好ましくない結果又はその両者を低減する行為。
リスク発見		組織に対する影響を及ぼす事及びその結果を、意見及び認識する過程。
リスク評価	risk evaluation	リスクの重要性を明らかにするために算定されたリスクを、与えられたリスク基準と比較する過程。
リスクマネジメント基本目的		リスクマネジメントの代替手段の範囲を特定するため、予測したリスク及び関連する社会面、環境面、経済面の損害の重要度を勘案しつつ、明示的にもしくは默示的な形で、価値と判断が意思決定過程に入る段階。
リスクマネジメント行動指針		リスクマネジメント行動指針から生じる全般的なリスク低減の到達点。
リスクマネジメント行動指針		組織の経営資源の保全、社会的責任を果たすなどのリスクマネジメントに関する指針。
リスクマネジメントシステム	risk management system	リスク管理に関する組織のマネジメントシステムの諸要素。
リスクマネジメントシステム担当責任者		リスクマネジメントシステム担当責任者から生じる全般的なリスク低減の到達点。
リスクマネジメントシステム担当者		組織の最高経営者の一員である、リスクマネジメントシステムに於けるリスクマネジメントサービスを統括する人。
リスクマネジメントシステム担当責任者		リスクマネジメント基本目的を達成するために設定される詳細なリスクマネジメントパフォーマンスの要求事項。
リスクマネジメントの目標		リスクマネジメント目標に基づいて、リスクマネジメントの目標に基づいて、組織が行うリスクマネジメントに関する既定可能な結果。
リスクマネジメントリパフォーマンス		リスクマネジメントのすべての場面に於ける文書。
リスクマネジメント文書		リスクマネジメント基本目的から構成され、リスクマネジメント目標設定のための枠組みを提供する全般的なリスクマネジメントパフォーマンスに關連する意図についての組織による声明。
災害(ハザード)	hazard	望ましくない損害をもたらす潜在力を有する状態。地すべりの災害を記載する際は、地すべり及びこれに伴なう崩壊地盤(もしくは崩壊地盤)、種類及び移動速度並びに一定期間内に発生する可能性を網羅すべきである。
リスク対象要素	elements at risk	地すべりによる影響を受ける地域内の、人口、建築物と土木工事、経済活動、公共サービス、インフラ及び環境を意味している。
発生確率	probability	特定の結果が発生する可能性で、これは発生し得る全ての結果に対する特定の結果の割合で測定される。発生確率は0から1までの数値で表示され、0なら発生不可能なし、1ならば発生が確定であることを意味する。
発生頻度	frequency	発生可能な基準であり、一定時間内における一つの事象の発生回数の形で示したもの。「発生可能性」及び「発生確率」も参照のこと。
発生可能性	likelihood	「発生確率」や「発生頻度」の定性的表現として使用される。
時間性の発生確率	temporal probability	地すべり時にリスク対象要素がその影響を受ける確率。
被損傷性	vulnerability	地すべり災害に見舞われた地域内に存在する一つもしくは二つのリスク対象に対する被損傷。その表示法は「被害なし」から「(全損)までである。損傷の場合は、当該財産の価値に対する人命部分の価値が被害であり、人身の場合には、人命が地すべり災害に見舞われた時に、特定の人命(リスク対象)が失われる確率である。

損害	consequence	地すべり災害の発生により生じる結果もしくは潜在的結果であり、これは損失、不利益、利益、傷害、負傷もしくは人命損失に関して定性的もしくは定量的に表現される。
リスク予測	risk estimation	分析対象である健康、財産もしくは環境についてのリスクの度合いに関する基準を設定するための方法。リスク予測には、発生頻度の分析、損害の分析及びこれらの統合的な分析の過程が含まれる。
個人的リスク	individual risk	地すべりに見舞われる区域内外に生活するもしくは社会全体の累計の死亡や負傷のリスク。即ち、多数の死に者、負傷者及び財政的、環境的その他のは損失をもたらす地すべりの危険性を抱えなければ恐れのある、特定可能な（氏名の判明しない）個人についての死亡や負傷のリスク。
社会的なリスク	social risk	社会全体の累計の死亡や負傷のリスク。即ち、多数の死に者、負傷者及び財政的、環境的その他のは損失をもたらす地すべりの危険性を抱えなければならない社会におけるリスク。
許容可能なリスク	acceptable risk	リスクマネジメントを全く除外して、生活や仕事の必要上から、我々がその在りのままを許容する覚悟のあるリスク。社会は、そのような正当化と認めたリスクを更に低減するためにまで出資することを通常は考えない。
受忍可能なリスク	tolerable risk	そうしたリスクが適切に制御され、監視下に置かれ、更には可能な限り低減されるだらうとの確信の下、一定程度の東洋を確保する必要上から、社会が自ら積極的に受忍しようとするリスク。
地すべり強度	landslide intensity	場合によつては、リスクに曝されている個人でリスクが適切に制御されていないことを知りつつも、そのリスクを低減できないために、リスクが受忍されているということもある。
道路斜面災害		地すべりの破壊力に関する、空間的なパラメータ一群。
道路斜面災害のリスク		バラメーターは定量的もしくは定性的に表示され、そこには最大運動速度、絶対位量、差分位量、運動土塊の深さ、単位幅当たりの最大荷重量、単位面積当たりの運動エネルギーが含まれる。
同リスク分析		道路に近接するのり面や斜面の崩壊や崩落に伴い、道路施設や道路利用者等が被る災害
同リスクマネジメント		道路斜面災害のリスクとは、狭義には道路斜面災害の発生に伴う社会的損失の年平均値（年平均損失）、広義には社会的損失の年間確率分布のことである。本マニュアルでは、原則として社会的損失の年平均値をリスクと呼ぶこととする。
斜面災害の形態		対象路線区間に抱元しているリスクの大ささや特性を把握すること。
斜面の崩壊率（フリティ）		分析された現状のリスクに対し、防災対策の費用便益分析を用いて、優先対策箇所を抽出、防災対策を選定等、リスクの取り扱いの方針や効率的な低減方策を検討すること。また、リスク低減方策を実施すること。
イベントプロット		「落石・崩壊」岩石崩壊「地すべり」「土石流など。各項目の定義については「平成28年度道路防災総点検要領（（財）道路保全技術センター）」を参照のこと。
リスクカーブ		複数の斜面の内、降雨等のある斜面の割合に對して崩壊する可能性のある斜面の割合。
モンテカルロ法		イベントとは、災害あるいは降雨を指し、横軸に1回あたりの被害額、縦軸にその年超過確率をとったグラフであり、任意に年生する合計被害額の分布を表したもの。リスクカーブで曲まられた面積が、その路線区間（斜面）の被害額の年平均値となる。
		モンテカルロシミュレーションとは、不確定要素に対してランダムな数値を当てはめたり、不確定性を考慮して多數回行うこととする手法で、マニユアルではこれを単にモンテカルロ法と称する。

オプションプライス			
崩壊の到達幅			
被災形態			
制動停止距離			
一般化費用	移動する場合に道路を利用する選択肢があることと のもたらす価値（オプション価値）を含めた道路 の価値であり、消費者余剰で計算されない部分。  崩壊の道路に到達した場合の幅、道路中心線で計 測する。災害に巻き込まれる被災者の人数に影響 する。単位 [m]。		
時間価値原単位	災害の被災者が崩壊により被災する形態。崩壊の 到達場所を運行中の場合はと制動しきれずする 場合のいすれかに分類される。		
走行経費原単位	運転者が車両を停止させようとしてから停止する までに移動する距離。空走距離と制動距離の和。 単位 [m]。速度により決まる。		
急救医療施設	移動の費用を一般化したもの。車両ごとの平均的 な移動のコスト。単位[¥]。		
安全搬送範囲	1台の車両が移動する際の距離あたりの費用。車 種ごとに異なる。乗用車では、平日日に差がある。 単位[¥/台・分]。		
誘因	1台の車両が移動する際の距離あたりの費用。車 種ごとに異なる。単位[¥/台・km]。		
年超過確率	心臓停止・呼吸停止・多量出血の症状に対応して、 医療機関に搬送しても救急処置が間に合わない範 囲の内側を意味する。		
到達土量	心臓停止・呼吸停止・多量出血の症状に対応して、 医療機関に搬送しても救急処置が間に合わない範 囲の内側を意味する。		
雨量指標	斜面災害が起こった時に発生する土砂量。		
降雨量階級	斜面や地盤など、斜面災害の直接的な原因。  1年間に、確率事象（降雨量、到達土量、被害額 等）が、着目する大きさを超える確率。		
斜面特性	降雨量の大きさを表わす指標。時間雨量、連続雨 量、換算連続雨量（実行雨量）、土壌雨量指数 等。		
発生源対策工	降雨量の大きさで区分した降雨の階級。		
規制雨量	斜面の素因である斜面高さ、斜面の強度特 性、勾配等の斜面の構造や、斜面の各地層の崩壊に關 わる特性。		
待ち受け対策工	崩壊が道筋に沿って発生する目的で 実施される対策工法。予防工・個別対策工法。		
目標水準	崩壊が道路に到達しないように防護する対策工 法。防護工。主に、現道脇に設置される。		
リスクプレミアム	通行規制を行う場合に、規制を行う基準となる雨 量。計測する指標は、横算雨量（時雨量・24時 間雨量）、換算連続雨量（実効雨量）、 などで、複数の指標を用いた通行規制区間もあ る。		
確実同値額	対象路線区間の安全性や信頼性において目標とする 水準。		
リスク算定	期待効用と同一の効用水準をもたらす確定的な金 額		
リスク管理	リスク算定後、対応すべきリスクの優先順位を決める手 がかりとするため、リスクが顕在化する確率及びリスク が顕在化した場合の被害規模を推定すること 組織やプロジェクトに潜在するリスクを把握し、そのリ スクに致して使用可能なソースを用いて効果的な対 応法を検討及び実施するための技術体系である。		